

岡垣射爆撃場の歴史⑨

— 岡垣射爆撃場の撤去なる! —

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

1973(昭和48)年1月、町議
会では射爆撃場の自衛隊使用に賛
成する緊急動議で強行採決となり、
賛成多数となった。町長が調印し
た「覚書」を追認したのである。

同年2月、昨年の10月に結成さ
れていた「射爆場から子どもを守る
母親の会」が、射爆撃場へハイキン
グに出かけた。約80人が参加した。
射爆撃場の標的のそばで、「守り育
てよう静かな町、平和な町、私た
ち祖先から育てられた宝物……」と
「三里松原」の歌を合唱した。この
ことは、新聞でも紹介された。

同月、「射爆撃場撤去をすすめる
会」は、町長のリコールを決めた。
同3月、町長が辞職を申し出て、
議会で承認された。4月に、町長
選挙が行われることになった。

「覚書」を支持する人たちによる
「岡垣を愛する会」が結成され、前

町長の辻守荘氏が候補者となった。

一方、「射爆撃場撤去をすすめる
会」などは、「平和で明るい民主町
政をつくる会」を発足させ、候補
者に同会の事務局長の石井邦一氏
を選出した。

同4月8日の町長選挙では、辻
候補が当選した。

同7月、官報(国)で8月1日以
降、射爆撃訓練開始が告示された。

同8月6日から、自衛隊機によ
る訓練が始まった。

同9月1日、「射爆撃場撤去をす
すめる会」は、射爆撃場の入り口
に団結小屋を建設した。座り込み
も行った。

同9月16日には、「岡垣射爆場即
時撤去福岡県民一万人集会」が、中
央公民館前で開催された。集会後、
射爆撃場西門前まで、デモ行進した。
翌年9月、「自衛隊機による訓練

反対県民集会」が、中央
公民館で行われた。約600
人が参加した。社会党の
猶崎弥之助、共産党の諫
山博、公明党の大橋敏雄
の3国会議員も参加し、
挨拶した。

その後、1976(昭和
51)年3月、射爆撃訓練の
誤爆で、松原内で火災が
発生し、約3万㎡が焼失
した。同5月にも火災が
発生し、1千㎡が焼失し
た。この火災で、「射爆撃
場撤去をすすめる会」は
県庁や防衛施設局(福岡
市)へ出かけ、抗議した。

翌年3月、「射爆撃場撤
去をすすめる会」は、「射爆
撃場使用期限切れ(昭和53年6月)
を遵守するよう、県に申し入れた。

1978(昭和53)年6月1日、
福岡防衛施設局から辻守荘町長宛
に、「射爆撃場使用禁止通告書」が
届いた。

同6月7日、射爆撃場で、自衛
隊機による最後の訓練が行われた。
こうして、33年間にわたる射爆
撃場の歴史は終えた。



▲岡垣射爆場即時撤去福岡県民一万人集会

この間、演習機による事故が川
件起きた。内訳は、葉きよう落下
59件、模擬爆弾落下17件、松原の
火災15件、実弾落下8件、演習機
墜落3件、機銃掃射3件、爆風被
害2件、不発弾爆発1件、異常爆
発3件である。このような事故に
加え、爆音もなくなった。

射爆撃場撤去により、静かで平
和な岡垣になった。